

## 2022 年度 第 2 回 一般社団法人日本疫学会理事会 議事録

日時	2022 年(令和 4 年)5 月 24 日(火)15:00-18:15
場 所	Web 開催
出席者	(順不同、敬称略) 理事:玉腰暁子(理事長)、井上真奈美(副理事長)、関根道和(副理事長)、 岡村智教、若井建志、神田秀幸、栗山進一、曾根博仁、片野田耕太、 村上義孝、福島若葉、近藤尚己、郡山千早、本庄かおり、有馬久富 尾島俊之(第 33 回学術総会会長)、三浦克之(第 34 回学術総会会長)、 第 32 回学術総会会長:近藤克則 監事:横山徹爾、和田恵子 選挙管理委員長:福田吉治 学会事務局:菊池宏幸(事務局長)、糟谷里美、鈴木美香
欠 席	井上茂、金子聰、小橋元

- 理事会に先立ち、玉腰理事長より、理事・監事 20 名の出席により理事会が成立していることが確認された。

### < 協議事項 >

1. 2022 年度第 1 回一般社団法人日本疫学会理事会議事録(案)は承認された。
2. 第 6 回一般社団法人日本疫学会定時社員総会議事録(案)は承認された。
3. 倫理問題検討委員会の栗山委員長より、学術総会演題登録時の倫理審査の有無の確認について、第 33 回日本疫学会学術総会事務局との協議内容の説明があり、次の事項を演題募集の予告項目に含むことが提案され、承認された。  
 「演題登録時の倫理審査の有無の確認について  
 ・学術総会における演題発表の登録を行う際に、今回の学術総会から、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」等による倫理審査について承認済みであるか倫理審査は必須でない演題であるかの確認を行うことになりましたので、ご留意ください。  
 演題登録時の倫理審査に関する確認欄(予定)  
倫理審査の承認を受けている(倫理審査委員会名・承認日・承認番号: )  
倫理審査が必須ではない演題である  
 ※倫理審査の要否は研究者ご自身で確認し、必要に応じて所属機関の倫理審査委員会に照会を行うなどしてください。日本疫学会が研究者あるいは倫理審査委員会に代わって、倫理審査の要否を判断するものではありません。」

また、個人情報保護法の改訂にともなう想定される影響やAMEDの個人情報の第三者提供に関する同意書等について説明がなされ、AMEDのデータ利活用に関する検討会での議論内容の情報共有が行なわれた。日本疫学会として、どのように情報の収集と共有を図り対応していくかが今後の検討課題となった。そこで、まずはスケジュールを確認し、必要に応じて会員に働きかけ、委員会で意見をまとめていくことになった。

4. 疫学専門家委員会の尾島委員長より、「疫学専門家制度に関する細則」の改正について、2024年より疫学専門家および上級疫学専門家認定の更新が開始されることに伴い、更新に関する詳細を明確化する目的で、次の改正事項の提案があり、承認された。

改正点は次のとおりである。①ポイント算定に必要な別表1～4に、更新に関する注釈を追加 ②別表4に、セミナーの代表企画・運営等、セミナーの演者・座長を追加 ③別表4に、学会事務局長、学術総会会長、学術総会事務局長等、学術総会副事務局長等を追加

5. JE編集委員会の片野田委員長より、近年Letterのページ数がデータ提示の図表の添付により増加しているため、これまで1記事1万円としていた料金設定を1ページ1万円に改定したい旨の提案があり、承認された。また、かつて学会誌の国際性の強化を図るために設置された「国際編集顧問」を、現在の実質的な機能を疑問視し廃止するかどうかを検討したいとの提案があった。今後科研費への申請も見据え、JE編集委員会においてその必要性や手続きについて検討を進めていくことになった。

6. 総務委員会の菊池委員長より、学術総会における謝金について、公開されている情報を整備・更新し、本規定が2022年5月24日から施行し、2019年1月30日から適用されていることを明記するとの説明があり、確認事項として承認された。

7. 玉腰理事長より、AMEDヘルスケア社会実装基盤整備事業の公募について説明があり、次の日本疫学会への協力要請について検討が行なわれた。

1)日本サルコペニア・フレイル学会の分野(1)への申請に伴う協力要請については、大塚礼先生(日本疫学会会員、上級疫学専門家)が参画予定であることから、日本疫学会が協力することが承認された。2)日本高血圧学会の分野(1)への申請に伴う協力要請とリエゾン委員の推薦要請については、有馬理事が当該学会の「予防・健康づくりに関する指針作成に関する統括委員会」委員長であること

から、協力することが承認された。また、リエゾン委員は後日選出されることになった。3)近藤理事より、分野(2)への応募予定の研究計画について説明が行なわれ、実装研究として評価プロトコル案の構築の際に、日本疫学会にヒアリング対象として参画してもらいたいとの提案があり、その方向で進めていくことになった。4)島津太一先生より提案された分野(2)への研究計画について、玉腰理事長より説明があり、採択された際に日本疫学会が協力する旨が提案され、その方向で進めていくことになった。承認された。5)高橋俊彦先生からの協力要請について玉腰理事長より説明がなされ、当該要請に近藤理事が対応していくことになった。

#### <報告事項>

1. 玉腰理事長より次の報告があった。
  - 社会医学系専門医協会 理事の交代について  
→祖父江先生から井上茂先生へ(2022年3月6日の専門医協会理事会にて承認済)
  - 第29回国際高血圧学会(2022年10月)後援名義について  
→2/16承諾回答済
  - WHO「災害・健康危機管理の研究手法に関するWHOガイダンス」プレス発表への協力について(近藤克則先生よりご相談)  
→メール審議(2/18) →全員承認 →玉腰先生2/21承諾回答済
  - 第31回日本医学会総会(2023年4月開催)の登録推薦委員について(3/11)  
→関根副理事長を窓口とする。実務は、関根先生のご指示のもと事務局が担当する。
  - 日本学術振興会賞の推薦について  
→伊藤ゆり先生(大阪医科薬科大学)を推薦(4/1推薦済)
  - 日本医学会創立120周年事業「未来への提言」に対する意見募集  
→理事MLで意見を伺う(4/6) →意見なし
  - JMSF:領域横断的連携活動事業(Team事業)の募集(日本医学会連合)  
→4/11に会員へ一斉送信済み →連絡なし
  - 領域横断的連携活動事業(日本肥満学会からの協力要請)について  
→役割を確認した上で、承諾(5/13)
  - 日本学術振興会 育志賞の推薦について  
→ホームページやニュースレターで「疫学会から推薦が必要であれば申し出てください」と周知(4/15) →申し出なし
  - 門田班社会医学グループ 今年度研究計画について(1/30応募)  
→採択(4/22)
  - 日本循環器病予防学会の後援名義依頼

→承諾 (5/13)

- JMA Journal への海外 Editor 紹介依頼  
→Aesun Shin 先生をご紹介 (5/9) (井上真奈美先生、祖父江先生、松尾先生、片野田先生了承済み)
- 日本医学会「企業主催講演会における学術講演内容介入状況のアンケート調査」依頼  
→理事MLで協力依頼 →9名より回答あり →集計結果を日本医学会へ回答(5/10)
- 日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の推薦について  
→医学賞に中山健夫先生(京都大学)、奨励賞に尾瀬功先生(愛知県がんセンター研究所)を推薦予定(7/1 締切)
- 「はじめて学ぶやさしい疫学」(改訂第3版および改訂第4版)について、尾島理事より今後の進め方について説明があった。
- 「疫学の事典」の進捗状況について、三浦理事より報告があった。  
→理事や上級疫学専門家の先生方に原稿のご執筆をお願いし、すでに原稿が集まっており、現在編集を進めている。2023年には発行予定である。

2. 選挙管理委員会の福田委員長より、代議員の異動に伴い、以下の地域ブロックの欠員補充を行なったとの報告があった。

- ①平田匠先生【北海道・東北】(旧：北海道大学)  
→【近畿】(新：奈良県立医科大学附属病院)  
【北海道・東北】馬 恩博(マ・エンボ)先生(福島県立医科大学) ご就任(5/6)
- ②山本精一郎先生【東京】(旧：国立がん研究センター)  
→【中部】(新：静岡社会健康医学大学院大学)  
【東京】奥村 泰之 先生(臨床疫学研究推進機構) ご就任(5/6)

3. 各委員会等から次の報告があった。

- 1) 疫学リソース利用促進委員会のリンケージ基盤推進WGの若井WG長より、今期の活動方針について次の説明があった。これまでは日本疫学会の将来構想委員会の調査や、保健医療統計のリンケージによる研究経験のある研究者へのインタビューから、保健医療統計のリンケージで問題となっている点の調査を行ってきたが、今期はその結果も踏まえ、具体的な問題について、関係機関等に要望を出すことを目標・活動方針とする。
- 2) 学会等連携推進委員会の曾根委員長より、現在の活動状況および今後の活動について、次の報告があり、これらの活動計画を具体的に進めていくことになった。  
①他学会との共催シンポジウムやセミナーを今後も積極的に推進していく。 ②

その際に、共催条件や COI が複雑なもの、あるいは学会後援の妥当性に疑問がある場合に委員会を招集し議論の上、理事長に報告する。③日本医学会連合 COVID-19 共通診療ガイドラインへの協力を継続する。④日本医学会連合「社会医学系若手リトリート」の際に構築された社会医学系若手研究者のネットワークを維持、発展させる活動を支援する。⑤社会医学系横断的な若手シンポジウムの日本疫学会（あるいは他学会）学術総会での開催を考えたい。⑥関連する学会（日本運動疫学会等）と協定を結び、参加費を割引きにするなど、相互の参加者数や交流を増やすような取り組みを検討していきたい。⑦疫学手法を本学のリソースを活用しつつ、音声付きパワーポイント等を作成し、オンラインで系統的に学ぶ方法（臨床系学会から希望あり）を他の委員会とも連携して検討していきたい。

次に、禁煙推進学術ネットワーク連絡 WG の片野田 WG 長より、ネットワークの定例会議等の報告があった。①加熱式たばこについて「タバコ産業とかかわらない、という方針について」がウェブ掲載された(4/15)。②禁煙治療薬バレニクリンの出荷が早くても 2022 年後半になる見込みである。③第 4 回禁煙推進学術ネットワーク学術会議が、2022 年 9 月 18 日に開催される予定である。④第 33 回日本疫学会学術総会（於：浜松）において、喫煙の健康影響およびたばこ対策に関するシンポジウム「観察研究からの因果推論 たばこ研究から学ぶ」（仮題）を企画している。

3) 多様性（ダイバーシティ）促進委員会の村上委員長より、活動の状況および今後の活動計画について次の説明がなされた。①会員登録情報を集計し、分析結果を理事会ならびに学会ホームページに掲載するとともに、代議員選挙時等で定期的に会員登録情報の更新依頼を行なう。②学術総会における託児所、リモート参加が選択可能となるよう提案し、またベビーシッター補助（会員の学会参加中の見守り）など、学術総会参加に関わる費用補助を検討する。③英訳が必要な情報について定期的にホームページの内容確認を行ない、日本語非母国語話者を意識した平易で分かりやすい日本語表現、コミュニケーションの普及を進める。

4) 広報委員会の金子委員長に代わり福島副委員長より、今後の活動目標が示され、ニュースレターの年 2 回の発行や日本疫学会ホームページの更新・整理を行なっていく旨、説明があった。

疫学リテラシー普及促進 WG の福島 WG 長より、ワーキンググループの活動計画について次の説明があった。①日本疫学会ホームページ「一般向けコーナー」の充実を図るため、疫学的考え方の理解を助ける動画の紹介（新規企画案）と「疫学用語の基礎知識」のコンテンツ整理を行なう。今後『疫学辞典 第 5 版』や『疫

学の事典』との兼ね合い（著作権も含む）や動画作成について、三浦理事や曾根理事とも相談しながら進めていきたい。②教育課程における疫学の考え方を普及していく。③国民の疫学研究に対する理解と信頼に関する調査の目標達成の評価方法について検討する。

メディア連携ワーキンググループの近藤尚己 WG 長より、今後の活動計画について次の説明がなされた。①7月の一般社団法人メディカルジャーナリズム勉強会（以下、「メディ勉」と記す）を日本疫学会との合同企画とする(7月)。②メディ勉との連携体制を構築する(夏頃までに)。③企画内容をまとめてウェブサイト等に掲載する(今年度中)。④メディ勉のFace Book サイト登録者 1200 人にアンケートを実施する(今年度中)。今後の課題として、①メディアの疫学リテラシーベースライン調査の費用や方法等 ②プレスリリース作成支援サービスの要件等があげられた。

- 5) JE 編集委員会の片野田委員長より、次の報告があった。
- JE 編集委員会は年 2~3 回を予定し、うち 1 回は現地を想定している。
  - 投稿、掲載状況に関して、2022 年 3 月末時点での投稿数は 101 で、2021 年の投稿数(513)と 2020 年度の投稿数(635)に比べ若干少ないペースだが、それ以前よりは多い水準である。採択率は 4% (2021 年は 15%、年間ではもう少し高くなる見込み)。年間掲載原著論文数が最大 75 編程度に抑えている。
  - Impact Factor 2020 は、2 年値が 3.211 (前年 3.691)、5 年値は 4.139 (前年 3.529)。
  - Instructions to Authors (2021 年 8 月の改訂版以降)を次のように改訂する。①Misconduct に関して追記 ②Letter の掲載料を 1 記事 1 万円から他の記事と同じく 1 ページ 1 万円に改定(上記協議事項) ③Appendix を原則著者リストのみとし、方法などの追記は Supplement へ記載 ④Supplement の図表などのナンバリングを eTable 1、eFigure 2、eMaterial 1 として明記 (内規とする可能性あり) ⑤著作権保護の有無の確認を明記(現状は投稿システムのみ)
  - Paper of the year(POY)、Best Reviewer 選考数について、現在 POY は 1 名、Best Reviewer は 3 名を選出しているが、選考結果で絞り切ることが困難な場合は、人数増減を可能にする。
  - 科研費 国際情報発信：JE 掲載論文の PR 強化 (昨年同様に 2022 年 3 月、既発行論文を元にプロモーション用の号を作成、JE に投稿してくれる可能性のある海外の研究者に郵送にて送付。JECH, Cancer Epidemiol 掲載論文の corresponding author と編集委員会メンバーの知己の研究者対象、JE の

査読者、JEに掲載された論文の著者)今年度はJEウェブサイト改修のための支出はあるため、レビュアーへの感謝レターなどに変更を検討している。

- 科研費 国際情報発信：JEウェブサイトの改修（J-STAGEとJEAサイトが併存して重複項目も多いため、ハンドリングしやすいJEAをメインとして各種metricsなど情報量を増やし、J-STAGEは記事閲覧に特化する。JEAのウェブサイトの運用で契約している(株)OAKと契約して進める)
- SNSの活用 Twitter/Facebookの活用に関するWGを正式に発足予定。広報委員会メディア連携WGと連携して進める。

- 6) 国際化推進委員会の郡山委員長より、次の報告がなされた。①第33回日本疫学会学術総会（浜松）における国際セミナーは、日韓台の三か国セミナーとして企画している（2023年2月3日開催予定）。②IEA-WP & JEA Joint Seminar (Title: How to treat missing data)が2022年3月26日（土）15:00～17:00 ウェビナー形式で開催された。参加者数は164名（オンデマンド視聴含む）、参加地域は日本、韓国、オーストリア、ニュージーランド、インド、マレーシア、ミャンマー、パキスタン、デンマーク、ハンガリー、チュニジアであった。③IEA国際疫学会は、2024年に南アフリカ共和国のケープタウンで開催されることになった。

- 7) 疫学専門家委員会の尾島委員長より、委員会全体の活動報告があった。
- 資格審査WGの小橋WG長に代わり尾島委員長より、疫学専門家認定の状況について、以下の報告があった。現在、上級疫学専門家の認定者数は290人（うち2022年3月31日認定が36人）で、（一般）疫学専門家の認定者数は32人である。今後更新認定に向け細則の改正を行ない（上記協議事項）、申請要項およびQ&Aを作成し、申請要項の公開(7/1)から認定申請(8/1～9/26)、審査(10/3～12/14)、認定筆記試験(2023/2/3)へと進めていく予定である。疫学専門家と上級疫学専門家の同時申請の経過措置は今回の申請まで終了予定である。
  - 試験作成WGの井上茂WG長に代わり尾島委員長より、次の報告があった。疫学専門家認定筆記試験は、第33回学術総会最終日(2023/2/3)に実施予定である。試験問題は作成済み。
  - 社会医学系専門医協会関係では、日本疫学会からの各委員が委員会等に出席している、また社会医学系専門医の認定更新が行なわれたとの報告があった。（[敬称略]理事：井上茂、研修プログラム認定委員会委員：小橋元、専門医・指導医認定委員会委員：井上茂、企画調整委員会委員：尾島俊之、試験分科会委員：大久保孝義）

- 8) 学術委員会の三浦委員長（疫学研究推進 WG 長兼務）より、疫学研究推進ワーキンググループの活動について、次の報告がなされた。①疫学研究推進 WG のミッションを確認した。（疫学研究推進グループに関する対応、学術関係の各種対応、学術総会での企画、疫学リソース利用促進委員会との連携）②第 33 回日本疫学会学術総会のメインシンポジウム「総合知活用に向けた新しい疫学研究手法とその課題」（仮題）を尾島会長と共同で企画している③AMED 予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業の検討を玉腰理事長、曾根理事とともに行った。
- また、疫学教育推進 WG の本庄 WG 長より、次の報告があった。①第 32 回日本疫学会学術総会において 2 つのプレセミナーが実施され、参加者数は 952 名（オンデマンド視聴含む）で、実施後のアンケート結果も概ね良好であった。②2022 年度のサマーセミナーは、オンラインあるいはハイブリッドによる形式で開催予定である。③第 33 回日本疫学会学術総会においてプレセミナー 2023 を実施予定である。
- 9) COI 委員会の有馬委員長より、2022 年 3 月に日本医学会 COI ガイドラインが一部改訂されたこと、社会医学系 6 学会における改訂に対する意見交換が行なわれる予定、また日本疫学会役員等の COI 状態の自己申告がオンライン化され、現在自己申告の提出（電子入力）を依頼中であることが報告された。
- 10) 選挙規定検討委員会の有馬委員長より、次の報告がなされた。2021 年度第 3 回理事会において、代議員の地域偏在があるとの指摘があり、委員会で検討したところ、前回の代議員選挙における選挙区別の各県の代議員数の比率と各県の会員数の比率との間に乖離の存在する県が認められたため、今後は、過去数回に遡って、「各県の代議員数の比率」と「各県の会員数の比率」を選挙区に検討するとともに、「代議員立候補者数」、「当選率」、「投票率」を県別に算出し、さらなる検討を行なっていくことになった。
4. 第 32 回日本疫学会学術総会の近藤克則会長より、次の報告があった。
- 開催概要：①テーマ：社会と疫学 ②会期：ライブ配信（2022 年 1 月 26 日～1 月 28 日）、オンデマンド配信（2022 年 1 月 26 日～3 月 13 日）、見逃し配信（2022 年 3 月 19 日～3 月 25 日）③会場：運営会社所有：配信室 ※機材設置拠点（東京都江東区有明 豊洲・東京ビッグサイト）

- 一般演題（口演発表のみ）：①合計演題数 325 演題（リアルタイム発表 53、オンデマンド発表 272）②一般口演 9セッション（うち 優秀演題賞候補セッション 6 題、英語セッション 6 題）
- シンポジウム等の学術企画
  - 【1月26日(水)】①疫学セミナー「人工知能で広がる疫学の世界」最大視聴者数：362 ②プレセミナー「今改めて『欠測データ』の解析について考える」最大視聴者数：358 ③プレセミナー「査読のいろは」最大視聴者数：358
  - 【1月27日(木)】①会長講演「社会と疫学」最大視聴者数：244 ②メインシンポジウム「社会疫学から疫学の未来を展望する」最大視聴者数：396 ③教育講演2「Well-being・幸福と健康：疫学・予防医学研究への示唆」最大視聴者数：292 ④シンポジウム5「暮らすだけで健康になる社会づくりと疫学」最大視聴者数：292 ⑤シンポジウム2「ポスト/ウィズ“コロナ”時代の疫学—新型“コロナ”感染症からの教訓」最大視聴者数：295 ⑥教育講演1「臨床研究に関する利益相反の考え方」最大視聴者数：163
  - 【1月28日(金)】①シンポジウム4「社会格差としてのタバコ —その解消に向けて」最大視聴者数：167（学会連携推進委員会 禁煙推進学術ネットワークWG 企画）②特別講演「New direction for disaster research and social epidemiology」最大視聴者数：331 ③シンポジウム1「災害疫学—減災・レジリエンスの疫学」最大視聴者数：191 ④シンポジウム3「出生コホートを基盤とする疫学研究の推進」最大視聴者数：196（日本疫学会疫学研究推進グループ企画）
- その他のプログラム：①奨励賞受賞者講演 最大視聴者数：176 ②共催セミナー 最大視聴者数：292
- 参加者数：学術総会：1221名、疫学セミナー：437名、プレセミナー：957名
- 協賛（合計：2,229,000円）：共催セミナー1社(800,000円)、広告5社(469,000円)、オンライン展示4社(660,000円)、寄付2社(300,000円)
- 広報：①関連学会相互バナー掲示4学会（相互無料）②関連学会幕間素スライド掲示7学会（相互無料）
- 単位：下記団体の単位取得を可能にした  
社会医学系専門医、日本疫学会疫学専門家認定ポイント、公衆衛生学認定専門家研修会単位、日本人類遺伝学会 GMRC 単位
- 収支決算：収入 21,113,000円 支出 17,385,277円 差額 3,727,724円

5. 第33回日本疫学会学術総会の準備状況について、尾島会長より次の説明があった。①開催日時：2023年2月1日(水)～2月3日(金) ②テーマ：総合知による健

康・幸福の向上 ②会場：アクトシティ浜松 ③開催形態：集合会場を基本にして、一部オンライン併用 ④運営会社：(株)ブランドゥ・ジャパン ④ホームページ開設：<http://web.apollon.nta.co.jp/jea2023/> ⑤協賛募集（ランチョンセミナー、敷設展示、講演集広告、バナー広告、寄付金、MDPI や他の出版社にも打診予定） ⑥託児所委託（(株)アイケア） ⑦企画案：特別講演（JST 社会技術研究開発センター（RISTEX）小林傳司センター長）、メインシンポ（学術委員会企画「総合知活用に向けた新しい疫学研究手法(仮)」、日韓台シンポジウム、禁煙推進学術ネットワーク連絡 WG 企画「観察研究からの因果推論(仮)」、JE 編集委員会企画「インパクトのある論文の書き方と広め方(仮)」、疫学教育（指導医講習会）、パイプオルガン演奏（昼休み後の時間帯で検討）、自由集会（集合型が生きる企画、日中のプログラムと平行して実施）、伝承・歴史等セッション募集（シニア歓迎） ⑧学術総会ホームページ（演題登録・演題採択一覧）【演題期間】8月～9月中旬（予定）【発表形式】一般口演（現地）、ポスターセッション（現地）、オンデマンドのみの一般口演・ポスターセッション【演題登録時の倫理審査の有無の確認】倫理審査の承認を受けている（倫理審査委員会名・承認日・承認番号記載）、倫理審査が必須ではない演題である【写真撮影や録画等】今回の学術総会では写真撮影や録画等の一律の禁止は行わない（→この件については、今後検討を継続して理事会に諮ることになった）【自由集会】募集予定【伝承・歴史等セッション】募集予定

6. 第34回日本疫学会学術総会の準備状況について、三浦会長より次の説明があった。①開催時期：2024年1月31日(水)～2月2日(金) ②メイン会場：滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール <https://www.biwako-hall.or.jp/access>（疫学セミナー、ランチョンセミナー、懇親会は、メイン会場近隣の別会場の予定） ③形式：現地開催の予定（ハイブリッド開催も検討中） ④参加者数：約1,000人（見込み） ⑤学術総会事務局：滋賀科大学 NCD 疫学研究センター（事務局長：同上 医療統計学部門 准教授 原田亜紀子）
7. 学会事務局活動および庶務について、菊池事務局長より次の報告があった。
  - 1) 学会事務局活動：①入会・退会手続き、会員へメール配信、会計処理（各種支払い、謝金の源泉税納付、会計入力）、会費入金処理等 ②理事長ミーティング補助 ③委員会等の活動補助（委員委嘱状の送付、JE 編集委員会：編集補助職員勤務管理・給与支払い、掲載料・別刷作成料の請求等、科研費管理・交付申請書および実績報告書提出、広報委員会：ニュースレターNo. 59 編集補助（4/15 発行）ほか ④委員会委員名簿の更新 ⑤第32回学術総会開催後の対応：受講票の送付、謝金に係る源泉税の納付 ⑥疫学専門家認定制度：認定証の作成と発送 ⑦疫学教

育推進 WG プレセミナー（アンケート集計）⑧学術総会（第 33 回運業者選定補助）⑨第 2 回理事会、学術総会引継ぎ開催準備 ⑩役員変更登記（就任承諾書、理事会・社員総会議事録提出）⑪日本学術振興会賞への推薦 ⑫新型コロナウイルス関連：関連論文紹介 ⑬ホームページの更新：ニュースレター掲載、奨励賞推薦の募集掲載、事務局からのお知らせ、関連団体からのお知らせ ⑭関連団体への対応（日本医学会・日本医学会連合、社会医学系専門医協会）⑮アンケート回答：日本外科学会男女共同参画委員会（1/24）、(株)ユニバーサル社/CMC 学会資料センター（1/25）、医学書院（5/2）

2) 庶務報告：①会員数（2022 年 5 月 1 日現在）名誉会員：33 名、代議員：209 名、普通会员：2,302 名（合計：2,544 名）※普通会员のうち 12 月～4 月入会の 2022 年度年会費無料学生会員：12 名 ②年会費納入状況（2022 年 5 月 19 日現在）2022 年度年会費の納入義務のある会員：2,500 名、5 月 19 日までの会費納入完了者：1,775 名（71%）、3 年以上の滞納者：63 名

以上